

公益財団法人 日本習字教育財団

學術研究助成成果論文集

Vol.4

いあいさつ

本年度も『公益財団法人 日本習字教育財団 学術研究助成成果論文集 Vol.4』を刊行する運びとなりました。

平成からの改元、そして東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、今、わが国は世界から注目されています。と同時に、その豊かな伝統文化にも眼が向けられることでしょう。このような中であって、昨年に引き続き、本年も留学生の研究論文が載録される運びとなりました。このように本学術研究助成制度が、いわば国際学術交流の一面を有してきたことは、誠に喜ばしいことであり、今後、より一層進むグローバル化に対応しつつ、書学書道文化の振興発展に寄与できますよう、公益財団法人として、今後も弛まぬ精進を重ねてまいります。

本書の刊行にあたっては、審査委員・査読委員の先生方をはじめ、関係者の皆さまに多くのご指導・ご協力を頂きました。心よりお礼申し上げます。

二〇一八年 三月三十一日

公益財団法人 日本習字教育財団 理事長 甲地史昌

助成研究企画 審査所感

研究助成審査委員長 古谷 稔

現代日本における文化的基盤を成すのは、やはり文字であり、漢字とかなを交えた表記が基本となっています。学校の教科書をはじめ、新聞その他小説から絵本に至るまで、印刷本が大きな勢力を維持しており、一方、近年では電子書籍なども流行していますが、そこで使用されている漢字とかなは、私たち日本人には一心同体ともいべき存在です。

いずれにしても、文字は私たちの日常生活にとって不可欠のものに違いありません。本企画が対象とするのは、手書きによる文字に接点を置いた習字・書写書道教育およびその関連分野の振興発展に寄与することがねらいとなつています。

思い起こせば、古く中国大陸から漢字を取り入れた時代から今日に至るまで、時代ごとに大陸の影響を受けつつもわが国ならではの書が発展し、多彩に展開されたことは、現存する文化遺産にも窺える通りです。それらを確認することによって、書の伝統を未来に繋げるべく、現代日本の抱える課題が様々に考えられます。

本年度のテーマも国の内外に及んでいるようですが、各領域担当の先生方によって厳正な審査が行われ、かつ査読委員の査読により、成果論文集上梓の運びとなりました。全体的な所感として、さらに将来を見据えた最重要課題に注目され、書写・書道に隣接する分野との密なる関連にも触れていただくことを期待いたします。

査読審査を終えて

査読委員長 大橋修一

本年も『公益財団法人 日本習字教育財団 学術研究助成成果論文集』を刊行する。早くも第四回を数え、論文の質・量ともに充実し、今回は七編の成果が載録された。各論文についての所感は以下のとおりである。

①は、内田誠一を研究代表者とするグループが、「近世から近代にかけての短冊の諸相——文事・蒐集・影印の周辺——」をテーマとした、二年に跨る研究の最終成果である。先年の成果を踏まえ、さらに広く資料を渉猟している。②の高橋佑太「張祖翼『磊盒金石後編草』初探」は浙江図書館での実見調査に基づく貴重な基礎研究である。限られた研究期間内で、成果を纏めきったとは言いがたいが、研究の継続に期待したい。③の杉山勇人「近代日本における筆記具の変遷史——習字・書写書道教育の基礎研究として——」は筆記具使用状況の実態について、多方向から考察した説得力のある論考である。特に数値の算出に対する緻密さには特筆すべきものがある。④の鈴木貴史「芸能科「習字」における思想教育——石橋啓十郎の教育書道論を中心として——」は関係資料を詳細に調査し、堅実な論考となった。⑤は橋本栄一を研究代表者とするグループ研究「東京学芸大学蔵日高秩父コレクション」についてである。コレクション中、特に日高の備忘録については資料的価値も高く、更なる考察を期待したい。⑥の富川展行「学習者主体の学び——経験学習をキーワードに——」は、コルプの「経験学習」サイクルを実際の書写の授業に用いた実践研究である。今後は、広く一般的に活用できるように授業方法などのブラッシュアップを期待したい。⑦は、張月「中国における小中学校書法教育の現状と課題についての研究——教材と教員、教学方法の考察を中心に——」で、中国での小中学校書法教育の現状について、事例をもとに報告し、興味深い内容となった。

助成対象者が、これを機に、更にそれぞれの研究を深化させることを期待したい。

目次

ごあいさつ	公益財団法人 日本習字教育財団 理事長 甲地史昌
助成研究企画 審査所感	研究助成審査委員長 古谷 稔
査読審査を終えて	査読委員長 大橋修一

〈論考〉

近世から近代にかけての短冊の諸相——文事・蒐集・影印の周辺——	内田誠一・増田知之・吉良史明	7
張祖翼『磊齋金石後編草』初探	高橋佑太	58
近代日本における筆記具の変遷史——習字・書写書道教育の基礎研究として——	杉山勇人	90
芸能科「習字」における思想教育——石橋啓十郎の教育書道論を中心として——	鈴木貴史	132
「東京学芸大学蔵日高秩父コレクション」について	橋本栄一・山下由季・小林拓也・エカテリーナ・ボボルイーキナ	158

〈実践報告〉

学習者主体の学び——経験学習をキーワードに——	富川展行	190
〈調査報告〉		
中国における小中学校書法教育の現状と課題についての研究		
——教材と教員、教学方法の考察を中心に——	張 月	219

英文タイトル

研究助成審査委員一覧